



10月

『NG 行動がわかる防災事典』タイチョー/KADOKAWA/369.3 ㌸

災害が起こった瞬間、「何をすべきではない」か？大地震・津波・集中豪雨など、突然の災害時にやりがちな「NG」行動と、その代わりに取るべき「正しい行動」をまとめた本。身近な物を使ってすぐに実践できる具体策を伝授。  
万が一の時、冷静に行動するためには、事前に知識を身につけておくことが大切です。  
参考にしてみてはどうでしょうか。



『今と未来がわかるデータサイエンス』川村康文/ナツメ社/007.6 ㌸

基礎教養になりつつあるデータサイエンス。その基礎技術や関連する AI 技術などについて、オールカラーでビジュアルに解説する。データサイエンスに必要な数学の基礎知識も掲載。

『ぼくはこんなふうにな本を読んできた』池上彰/SB クリエイティブ/019 ㌸

ニュース解説、大学教授、取材、執筆と多忙を極める池上彰が、幼少期から現在までの読書遍歴を公開。読書時間の捻出法なども紹介する。『ラジオ英会話』連載を加筆し書籍化。

『オックスフォードの女性哲学者たち』クレア・マックール/青土社/133.5 ㌸

第二次世界大戦前夜、4 人の女性たちが哲学を学びはじめる。4 人は戦争の悲惨に直面しつつも、客観的な道德の基礎を求めて、新たな哲学のあり方を模索しつづけた。困難な問いに挑んだ女性たちの姿を描くノンフィクション。

『比叡山』景山春樹/講談社/188.4 ㌸ 大津2階文庫

延暦 4(785)年、20 歳の最澄が草庵を構えた比叡山。天台法華宗・根本道場の三塔十六谷の霊所を案内しながら、信長の一山焼き打ちなど 1300 年を超える歴史を「地理」的視点から考察する。年表も収録。

『旅の記憶』有元葉子/講談社/290.9 ㌸

「世界一おいしい!」ケイパーの島、バインセオの皮の秘密と唐辛子塩で食べるパイヤ、タイルとコルクと哀愁の街・リスボン、イギリスで知った本物のパンの香り…。料理家である有元葉子が世界中を巡った旅の記憶を綴る。

『大人のひとり旅の始め方』孤独のまちこ/KADOKAWA/291 ㌸

40 代、これからの人生を考えたときに、ふと出会ったのが「ひとり旅」だった。旅にハマった理由から、具体的な旅程、ひとり旅のコツまで幅広く網羅。各地で食べた美味しいグルメ情報もくまなく紹介。

『最後の山』石川直樹/新潮社/292.5 ㌸

生涯の友となった新世代のシェルパとの出会い、「真の頂上」問題、山頂直下で目撃した衝撃的な遭難。標高 8000 メートル超の 14 座の山全てに写真家として史上初めて登頂した軌跡を綴る。『新潮』掲載に加筆・修正。

『若者恐怖症』舟津昌平/祥伝社/336.4 ㌸

なぜ職場は“若手ファースト”になったのか。データや若者の声をもとに職場で進行する新たな問題を読み解き、背景にある社会構造と根本的な原因を指摘。よりよい組織づくりのヒントを提示する。

『60 分でわかる!新・年金超入門』酒井富士子/技術評論社/364.6 ㌸

老後 2000 万円問題、年金の繰り下げ…。賢い年金生活を送るための新しいマネー戦略を、見開き 1 テーマで、左ページに文章、右ページに図解というスタイルで解説する。老後の年金 Q&A も掲載。最新の法改正に対応。

『世界自炊紀行』山口祐加/晶文社/383.8 ㌸

日本人にとっての「いつものごはん」が「納豆ご飯と味噌汁」だとするならば、世界各地の人々にとっての「いつものごはん」はどのようなものだろう。12 か国を取材し、24 組の家庭の自炊事情を 12 種のレシピとともに紹介。

『たくましくて美しい淡水生物図鑑』関慎太郎/創元社/481.7 ㌸

著者が心奪われた推しの淡水生物 33 種を紹介。さらに、水辺を生き抜く生きものたちのさまざまな姿、驚くべき知恵と工夫、自然写真家である著者の原点、小さな水族館「びわこベース」誕生の物語などを収録する。

『君たちはなぜ、そんなことしてるのか?』松原始/山と溪谷社/481.7 ㌸

人間をミツバチの巣に案内する鳥、キリンの首が長い本当の理由、電球の周りを飛ぶ虫…。動物たちのやっていることが何なのか、なぜそんなことをするのかを研究する「動物行動学」の超入門。鳥類学者がユーモアを交えて解説。

『おいしい循環』たいら由以子/婦人之友社/518.5 ㌸

生ごみや落ち葉などを入れると、微生物の力で分解し、栄養たっぷりの堆肥に変えてくれるコンポスト。コンポストの種類と使い方から、堆肥や微生物のはたらき、ガーデニング、野菜ランチまでを写真やイラストとともに紹介する。

『お豆腐、今日はどう食べる?』石原洋子/家の光協会/596.3 ㌸

焼いても、炒めても、揚げても、煮てもおいしいお豆腐。いろいろな具をのせて楽しむ冷ややっこ、プルンとした食感が魅力の温やっこをはじめ、サラダやメイン料理など、とっておきのお豆腐レシピを紹介する。

『日本万博全史』夫馬信一/左右社/606.9 ㌸

人は<万博>に、どんな夢を見るか。挫折した 1940 年万博計画から、令和の大阪関西万博まで、日本人と<万博>のカオスな 100 年史を、貴重な画像約 300 点とともに綴る。

『もっと知りたいムーミンとトーヴェ・ヤンソン』橋本優子/東京美術/723.3 ㌸

児童文学ムーミンの作者であり、20 世紀のフィンランドを代表する芸術家の一人、トーヴェ・ヤンソン。ファシズムとの闘いをへて開花したムーミンの世界、壁画の業績、肖像画などを紹介する。

『ちっちゃなねこたちのおるすばん』MEBARU/小学館クリエイティブ/759 ㌸

人気羊毛フェルト作家 MEBARU による、羊毛フェルトの 4 匹の猫たち。なんでも興味を示す猫たちの、とある日の「おるすばん」を描くストーリー作品集。作品のこだわりやインタビューも掲載。

『あなたはもう遭難している』羽根田治/山と溪谷社/786.1 ㌸

山に登る以前の段階で、すでに遭難する可能性が極めて高い状態のことをいう「入山前遭難」。実際の遭難事故のなかから、入山前遭難にあたる 30 の事例を紹介するとともに、遭難に至らないようにするためのノウハウを解説する。

『ひとめでわかる!はじめての手話』中村直子[監修]/成美堂出版/801.9 ㌸

手話の基礎知識や初歩的な表現・文法、日常生活のなかでよく使われる単語やフレーズを、イラストでわかりやすく説明する。災害時・緊急時のために覚えておきたい手話、都道府県名の手話なども掲載。

『翻訳ワークショップ』金原瑞人/研究社/837.5 ㌸

人気翻訳家による実践的翻訳指南書。英語の複雑な構文のとらえ方、状況における判断、多義語の理解、AI の活用法、日本語による誤訳の摘発法などを伝授する。実際に短編を 1 本訳す「実践編」も収録。

『短歌のガチャポン、もう一回』穂村弘/小学館/911.16 ㌸

わくわく、どきどき、にこにこ、がーん。現代短歌の旗手・穂村弘が選ぶ、なんでもありの短歌のガチャポン・マシーンが再び登場! 明治から現在までの短歌 100 首を鑑賞文とともに収録。メリンダ・パイノのイラストも掲載。

『真夜中に吠えたくなって』椎名誠/KADOKAWA/914.6 ㌸

よく喋る新幹線のアナウンス、宇宙妖怪みたいなゆるキャラ、コロナの後遺症、「血液サラサラ」人体の音出し問題…。椎名誠作家生活 45 周年突破の記念碑的エッセイ集。『タ刊フジ』連載に加筆修正。

『介護未満の父に起きたこと』ジェーン・スー/新潮社/916 ㌸

82 歳の父が突然ひとり暮らしに。唯一の家族である娘は、あえてビジネスライクにサポート。日々体力と記憶力が衰えていく父のケアに奔走した著者が、「介護前夜」の 5 年間を綴る。『波』、WEB『考える人』連載を加筆修正。

『あなたが僕の父』小野寺史宜/双葉社/F ㌸

富生が故郷の館山を離れて 20 年以上が経った。久しぶりに実家を訪ねた富生は、父の「老い」を目の当たりにする。不安に駆られ父との同居を決めるが、富生には付き合って 8 年になる恋人が東京にいて…。

『ニュースが消える日』堂場瞬一/講談社/F ㌸

大手全国紙の整理記者を辞め、実家の印刷所が発行する地域紙の編集長になった戸倉大介。人口 25 万人の平和な地方都市に事件は少なく街ネタが中心。そんな中、若き市長が自宅前で何者かに襲撃され、戸倉の記者魂に火が付き…。

図書館のホームページで蔵書検索や本の予約ができます。

また、登録された方にはメールで新着本をお知らせする「新着案内メール」を配信しています。

※メールアドレスを変更された場合はご自身でホームページより変更手続きをお願いします。



スマホ用ホームページ